

公益財団法人高速道路調査会の代表者が評議員を務める REAAA の第 112 回評議員会が開催され、併せて開催された舗装技術委員会、技術委員会および第 17 回若手技術者会議の概要について出席者から報告します。

第 112 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次*

はじめに

アジア・オーストラレイシア道路技術協会 (Road Association of Asia and Australasia: 以下「REAAA」という。) の第 112 回評議員会が 2020 年 7 月 7 日に、REAAA 創設以来初めて、REAAA 本部主催の Web 評議員会 (Zoom 会議) として開催された。併せて、REAAA ヤング・プロフェッショナル会議 (以下「YP 会議」という。) も 7 月 10 日に Zoom 会議で開催された。本来の計画では、今回の第 112 回評議員会と YP 会議はインドネシアチャプターとインドネシア道路開発協会 (IRDA) が主催し、ジャカルタで今年 3 月に開催されることになっていた。それが 7 月に延期され、さらには Web 会議へと変更された。COVID-19 の影響はインドネシアのみならず、REAAA メンバー国すべてに及び、会議の方式をも変えてしまった。2 回のトライアルで通信状態を周到に確認して、本番ではマレーシア、インドネシア、韓国は評議員がそれぞれのサテライトに集合した一方、フィリピン、オーストラリア、日本などは個人のオフィスからと、各国の COVID-19 対策に基づいて、多くの評議員が参加した。

この評議員会には日本から橋場 REAAA 副会長 (日

本道路協会 代表評議員)、鳥居 REAAA 推薦評議員 (技術委員会担当)、神谷 REAAA 舗装技術小委員長、オブザーバーとして片山(株)日本高速道路インターナショナル社長、そして黒田 (高速道路調査会 代表評議員) が出席し、YP 会議には NEXCO 中日本から水橋 YP が出席した。

今回の報告では評議員会の概要を黒田が担当し、技術委員会、舗装技術小委員会については鳥居氏と神谷氏、YP 会議は水橋氏が担当する。

第 112 回評議員会 (7 月 7 日, 9:30 ~ 13:30 (日本時間))

1. 会議の開催

(1) Momo・REAAA 会長 (昨年 9 月よりフィリピン国会議員 (Lower House)) の冒頭挨拶は、COVID-19 対策で自身も 3 カ月間自宅から出ておらず、個人の生活に大きな影響が出ている。また、フィリピンの建設業全体に大きな打撃を与えつつある。これはフィリピンだけでなく、REAAA メンバー国全体にも言えることである。このような状況の中、われわれはニューノーマルの在り方をしっかりと捉えて REAAA 活動を推進することが求められている。この一環として、初めて Web 会議の形式で評議員会を開催する運びになった。Web 会議という、新しい方式での会議で事

* REAAA 評議員

事務局に準備に骨を折っていただいた、感謝する。

(2) 今回の第112回評議員会には国別で、マレーシア、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、韓国、台湾、ブルネイ、日本が出席、シンガポール、タイが欠席したが、多くの評議員の出席により評議員会として成立した。

2. 議事録確認

アブダビで開催された前回の第111回評議員会議事録は異議なく了承された。

3. 財務長報告

2020年1月から5月末時点の財務報告では、この期間に捉われずにCOVID-19の影響を踏まえての状況報告となった。1つ目は会費の未払が多いこと、今年度の会費納入は想定の25%程度であり、歳入全体が滞っている。2つ目は広告収入などのさらなる訴求が全くできていないこと。この報告に対して、Momo会長からは会費の納入はCOVID-19の影響で遅れてはいるものの、年内には納入が期待できること、またCOVID-19の影響で支出も減少しており（この評議員会もWebで開催していることから支出がほぼゼロ）収入、支出でバランスが取れていることが報告された。2020年の予算総額は約29万マレーシア・リングットに対して、5月末の支出は約8万マレーシア・リングットであった。

4. 事務総長報告

事務総長の業務もCOVID-19に影響を受け、評議員会の開催延期、そしてWeb会議の開催と開催予定国であったインドネシア道路開発協会との連絡調整、さらに2021年3月に予定されていたREAAA総会の開催延期に伴う、フィリピン道路協会(REAP)との連

絡調整、併せて第113回評議員会を予定していたニュージーランドでの開催からWeb会議に変更、といずれもCOVID-19に振り回されたが、この評議員会に提案できる内容にまで調整が進んだことが報告された。

5. 技術委員会報告

委員長のMr. Kieran Sharpが技術委員会全体に対しての進捗状況を報告し、次に舗装小委員会神谷委員長から小委員会での活動報告がされた。技術委員会および舗装小委員会については鳥居氏、神谷氏から別掲で報告する。

6. 会員促進委員会報告

委員長のMr. Sugiyartanto（インドネシア道路総局長）から会員の増減（2019年9月～6月の10カ月間）について説明があった。会員総数は1,358会員となり、前回評議員会時に比べて95会員の減（41会員の加入、136会員の退会）になったことが報告された。

7. 広告委員会報告

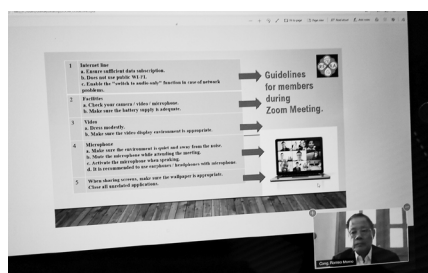
前回の評議員会で決定したように、ニュースレターとジャーナルは広告収入などで予算が確保された場合にのみ発行するため、今回はインドネシアから2,000マレーシア・リングットの広告収入が得られ、E-ニュースレターが発行された（欠席したマレーシアのMs. Nik Jaffarに替わって事務総長から報告と広告掲載のお願い）。

8. フェロウシッププログラム

マレーシアのMr. Denis Ganendraから説明。COVID-19の影響から第112回評議員会と同時に開催予定であった第8回ビジネス・フォーラムのためのプログラム実施を変更し、2021年にマニラで開催されるREAAA総会のビジネス・フォーラムでのプログラム実施に変更することにした。2021年のREAAA総会および第8回ビジネス・フォーラムに向けて、このプログラムへの寄付の申し出を期待している。

9. Web-site

フィリピンのMr. David Sanchezから説明があり、REAAAのホームページ(HP)について大規模なデ



写真—1 Zoom会議

デザインと機能の変更が報告された。この新しい HP には多くの訪問を意識した新しいデザイン、セキュリティの向上、ユーザーフレンドリーなレイアウト、最新ニュースの取込み安さ、オンラインセミナー（Webinar）システムの導入などが加えられた。この一新された reaaa.org を是非訪れて、随分と使いやすくなり、安全になった Web-site を楽しんでいただきたい。

10. ニュースレター

韓国が担当しているニュースレターについて韓国道路協会の Ms. IO Song から説明。ニュースレター <REAAA Newsletter 2020- 1> は今年 2 月に刊行した。インドネシアの Dardak 氏、台湾の Yu-min 氏に投稿して貰ったほか、8 カ国の評議員からのニュースを取り入れて魅力あるニュースレターになった。次のニュースレター <REAAA Newsletter 2020- 2> は、メインテーマを COVID-19 として、各国の状況報告にとどまらず、その卓越した対策法について取り上げたい。REAAA メンバー国の COVID-19 対応は世界の注目を集めており、その紹介をすることは REAAA の活動として大変意義があると考えられる。このニュースレターは第 112 回評議員会の内容も含めて 8 月 10 日を締め切りとして原稿を募り、9 月 20 日までに発行したい計画。各国の COVID-19 対応の投稿を期待する。

11. 片平・三野基金

黒田から報告。両基金は Standard Chartered Bank Singapore の定期預金として貯金されており、片平基金の現残額は GBP36,909.75（日本円で約 520 万円）、三野基金は USD35,040（日本円で約 375 万円）とそれぞれポンドとドルの基金になっており、片平基金はブリエグジットの影響で以前に比べて 25% 程度の評価損は見られるが、その金利で少しずつ額を増やしている。また、片平賞と三野ベストプロジェクト賞の賞品、賞金の必要額については日本の企業から寄付もあり、この両基金には過去から一切手を付けずに済んでいることを報告。今回の片平技術論文賞の副賞の賞金総額 3,000USD については既に片平グループから寄付の申し出を受けている旨も報告。

12. 三野ベストプロジェクト賞

橋場氏から報告。三野ベストプロジェクト賞は新しいスケジュールにより実施され、ノミネーションの締め切りを 11 月 30 日、評価委員会から授賞プロジェクトの決定を 2021 年 1 月 31 日、そして REAAA 評価委員会の了承を 2 月中旬に得るスケジュールとした。前回と同じように <High-volume road> と <Community-road> の 2 つのカテゴリーに分けて賞を付与すること、そして第 2 回 REAAA 三野ベストプロジェクト賞は第 16 回 REAAA 総会（フィリピン、マニラで開催）にて表彰されることが確認された。

13. Hwang 基金および REAAA-Hwang 賞

韓国チャプター会長の Mr. Sung-Hwan Kim から報告。REAAA の名誉会員であり、現推薦評議員でもある Hwang 氏から USD90,000 あまりの寄付があり、受賞者に USD10,000 の賞金が副賞として付与されることは繰り返し報告されている。今回はそのスケジュールについて評議員会の了承を求める。7 月 20 日からノミネーションを受付、10 月 30 日にノミネーション締め切り、11 月に授賞候補者の決定、そして同じく 11 月に開催される第 113 回評議員会での授賞者の決定を予定している。

14. 今後のスケジュール

第 113 回評議員会、第 16 回 REAAA 総会、そして総会後の第 116 回評議員会に向けてのスケジュール他が確認された。第 113 回評議員会はニュージーランドにおいて、2020 年 9 月 21～23 日（月～水曜日）に開催予定として前回の評議員会で計画されていた。今回、ニュージーランドチャプターから Mr. Robin Malley が出席し、現在の COVID-19 のニュージーランドでの規制やメンバー国の規制を考慮すると、今年 9 月の開催は見送ることが良策、その代替として 2021 年 9 月（1 年延期）にニュージーランドで第 116 回評議員会を開催することを提案した。これに対して、REAAA のプロトコルでは会長を選出した直後の評議員会は、会長を輩出した国で開催されることになっているが、これに捉われることなく事情を鑑みて、評議員会としてこのニュージーランドの提案を受け入れた。

このことから、ニュージーランドでの開催はなくなり、第113回評議員会は引き続きWeb会議により開催され、REAAA本部事務局がホストとなり11月に開催することが異議なく決められた。次に、2021年のREAAA総会の開催時期についてホスト国であるフィリピンから提案がなされた。提案は、現時点での2021年3月開催予定ではフィリピン政府の許可が得られない可能性が高いため、2021年5月あるいは6月の開催としたい。これに対して、インドネシア、マレーシアから5月は宗教的な行事(ラマダン)があり、参加は困難との意見があり2021年6月15～17日、フィリピン、マニラでの開催が決定した。

Momo会長から会長任期は最大4年とREAAA規定で定めており、この大会の延期はこの規定に抵触することにならないかとの質問があり、これに応じて事務総長から、コンプライアンス担当弁護士の理解では、任期の延長には評議員会の了承が不可欠とされたことが報告され、これを受けて直ちに評議員会はMomo会長の2021年6月開催のREAAA総会までの任期延長を了承した。

このREAAA総会の日程の決定に関連して、2020年6月末が期日であった技術論文の概要(Abstract)の提出数が過去の大会に比べて1/3にも満たないことから、締切り期日の再延期が提案され、9月末日とすることが了承された。

15. 指名委員会

REAAA第17期の会長以下の選考に関して、インド

ネシアチャプターから韓国からの会長立候補を推薦するレターが提出されたことを事務局が紹介した。韓国から会長を推薦するのであれば日本は賛同すると表明したが、韓国は国内の意見が未調整で、議論が整理されたのちに対応したいと留保した。

16. 名誉会員

名誉会員委員長のインドネシアDardak氏(直前会長)から説明。総勢13名の名誉会員への推薦を受け付けた。当評議員会の合意を得て、評議員の投票に進める。この投票は本評議員会後、直ちに評議員に送付するので協力願いたいとされた。日本は現推薦評議員である山川氏、鳥居氏を名誉会員に推薦している。

さいごに

REAAA創設以来、初めてのWeb会議による評議員会は無事に全議事を完了した。COVID-19の影響はメンバー国により深刻度に違いはあるが、REAAAメンバー国全体としてはニューノーマルを受け入れ、大きな支障なく今後の活動を継続、発展させる目途を付けつつあることが理解できる形の評議員会になった。ただ、今後もREAAA活動へのCOVID-19の影響は避けがたく、未確定要素は残る。そのような環境の中、新しい通信方式を多用して今後も情報発信や情報共有に努めていくことになる。一方、読者の皆さまには技術論文の提出やREAAAの各賞に応募するなど、第16回REAAA総会に向けて、今後もREAAA活動をご支援下さいますようお願いしたい。

REAAA 技術委員会・舗装技術委員会報告

神 谷 恵 三* 鳥 居 康 政**

REAAA 技術委員会および舗装(小)委員会の活動

- * REAAA 舗装委員会(PTC)委員長, 中日本高速道路(株)舗装専門主幹
- ** REAAA 技術委員会委員, PTCアドバイザー, 世紀東急工業(株)常任顧問

は第110回REAAA評議員会(2019年4月,台北)出席報告の一部として本誌2019年8月号(pp.77-79)に報告している。第111回評議員会(2019年10月,アブダビ)にはK. Sharp技術委員長とともに本報告者の1人鳥居も欠席したが、今回は神谷も合わせ出席

したことから別項で報告したい。なお、技術委員会の運営については私見が入ることをお断りしておく。

以下、気温10℃だったというオーストラリア・メルボルンから参加したSharp技術委員長の報告概要である。前評議員会議事録に残された課題を挙げ、該当する項目順に報告するかたちで行われた。舗装小委員会分については配布資料を準備し、会議に参加・発表した神谷の報告分も含まれる。

1. 技術委員会

(1)委員の構成

前回の報告で現行の技術委員会委員補助を目的に若手技術者（Young Engineers & Professionals：YEP，以下「YPメンバー」という。）を巻き込む提案は評議員会で了承されたと記述したが、その後の会員各国の支援欠如に対するフラストレーションは継続している、という発言で活動報告は始まった。YPメンバーを関与させる目的はシニアである委員の労力を軽減させることとYPメンバーに活動の場を提供することである。確かに技術委員長と委員間のこの1年間のやり取りでは小委員会の構成が急がれたが、舗装小委員会を除く他の2つの小委員会委員の登録についてのリマインダーに対する委員の対応は（相変わらず）鈍いものであった。前評議員会の議事録ではそのように書いていないが、思うように進展していないことから活動報告には技術委員会補強提案が「拒否」され、委員長を継続することに疑問を感じるといった強い表現があった。今回改めて提案された技術委員会へのYPメンバー補充については数カ国の賛同が得られた。

(2)技術関連刊行物

先ず“Journal”について、前回議事録に残された台北における“Business Forum (BF)”で発表された事例報告をベースにまとめる案については発表者の協力・支援が得られない状況にあるとのことであった。代わりにオーストラリア支部会員に声をかけ5～8ページのショート・ペーパーをまとめた“Journal”の作成が提案された。内容はオーストラリアおよびアジア地域の最新の工事例を収集した“compendium”のかたちを採り、成功した場合は他の会員各国でもモデルになるであろうとのことであった。

わが国の技術支援でまとまったミャンマーの舗装マニュアルを“REAAA Technical Report”としてまとめる案は本誌にも先に報告したが、今回改めて鳥居より関係者への確認を行った旨報告し、了承された。執筆は舗装小委員会委員の平川一成氏を中心になされる予定である。

(3)技術小委員会

①舗装委員会（Pavement Technology Committee, PTC）

本委員会については前評議員会以降の活動を神谷より報告したが、最も重要な点はアジア諸国の舗装構成と設計因子に関するアンケート調査であった。これは昨年9月に、加盟11カ国に対して回答をお願いしたものである。各設問に対して回答しやすいように、絵図写真を示しつつ選択肢方式を採択したものであったが、回答は5カ国のみであった。会議中に韓国委員から提出があったので、6カ国の報告をいただいたことになる。12月当初の締め切りに対して、このように回答に遅延が見られたのは、昨今のコロナウイルスの影響が考えられる。回答をいただいた国には謝辞を述べると共に、選択肢に限定せずに独自のコメントを付与していただいた提出例（オーストラリア、シンガポール、台湾）も報告した。これは来年予定されているマニラでの道路会議を充実させるべく、未提出の国に対して啓蒙を図るためでもあった。

この他、今期（2020～2023年）からNEXCO総研の舗装担当部長の高橋茂樹氏がPIARC-TC4.1舗装技術委員を務めることを報告した。さらに、高橋氏をPTC委員リストに追記することにより、両舗装技術委員会のコラボレーションは支障なく継承されることを付け加えた。またフィリピンから新規メンバー1名の追加登録があった。

コロナウイルスの影響によりPIARCのTC活動の先行きが読めないが、TC4.1のTOR（活動方針）が示されたので、PTCのTORにもこれを反映させて行きたい旨を述べた。

②気候変動・レジリエンスおよび緊急事態管理委員会

前回議事録にも対応が促されていたが、本委員会は未だブルネイ、韓国、ニュージーランドおよびシンガポール4カ国からの委員登録が未了であり、活動報告

書には参加の意思がないのではと記述されている。また、本委員会の幹事国はオーストラリアであり、委員長は本委員会設立時に PIARC の同種 TC 委員であった C. Evans 女史を想定していた。しかしながら、彼女が PIARC TC.1.4 (Climate Change & Resiliency of the Toad Network) の委員長に就任されたことから、委員として残るものの本委員会の委員長を兼ねることができず、後任が決定するまで Sharp 氏が暫定的に委員長を務めることになっている。なお、わが国からは田村敬一氏と曾根真理氏とともに PIARC-TC.1.5 (Disaster Management) 足立幸郎委員長が登録されている。報告では、本委員会は PIARC TC.1.4 あるいは TC.1.5 の下部委員会ではないとしながらも、今期の PIARC のガイドラインを注視したいと述べている。

③道路交通安全委員会

この委員会も未登録国への催促が前評議員会から継続しているが、依然としてブルネイ、韓国、ニュージーランド、シンガポールおよびタイの5カ国から指名がなされていない。また、委員長は本委員会の幹事国マレーシアの道路交通安全研究所 (Malaysian Institute of Road Safety Research, MIROS) Siti Zaharah Ishak 所長 (REAAA 推薦評議員) が務めていたが、彼女が本年5月に前職の MARA 工業大学に戻ったとのことであった。本委員会は前評議員会において、設立当初に委員登録あるいは参加の意向を示したオーストラリア、日本、韓国、インドネシアおよび台湾のメンバーで具体的な活動を開始すると委員長から報告されていた。委員長のリーダーシップが発揮されている好例であり、後任の委員長は同じ MIROS の所長が就任予定とのことである。また、この職にあるマレーシアの技術者は歴代 PIARC の交通安全を扱う TC 委員を務めている。なお、わが国からは小林寛氏が登録されている。

④技術委員会活動活性化のためのインセンティブとタスク・フォース

今回は Sharp 技術委員長の報告および見解に対する議論の中で前向きな方向の意見が2件あった。1つは Zulakmal 事務総長から出された“Journal”編纂のための予算措置であり、もう1つはマレーシアの推薦評議員代理として出席した Wong Shaw Voon 氏が提案したタスク・フォースの設立であった。前者につい

ては運用の具体性と実効性を詰める必要があるが、論文執筆のインセンティブとして機能する可能性があると思われる。後者に対してはインドネシア、マレーシア、台湾と並んでわが国からも橋場副会長が参加の意向を示した。

2. 道路交通統計

今回も Sharp 技術委員長が準備・配布した資料はなかったが、事務局から会員各国の道路交通関連の最新データが提示され、今後とも適宜更新資料の提供が求められた。

3. PIARC との連携

活動報告書には具体的な活動の記述はなかったが、関連事項を参照とあった。前項に記したように現行の REAAA 技術小委員会すべてに PIARC の同種 TC 委員が参加しており、また舗装およびレジリエンス小委員会の TOR には PIARC の関連 TC で今期 (2020-2023 年) に扱うトピックスに関心を寄せていることも分る。今後、共通する課題を見出し、タイミングを合わせた共同イベントに取り組む体制は整っているといえよう。

4. その他

前回の本誌報文に Sharp 技術委員長より同国で進められている (仮称) 『世界の舗装の歴史』編纂について会員各国の協力が求められた、と記した。わが国分については故 武部健一氏著『道路の日本史』(中公新書 2321) をお見せし、Sharp 氏が選定した古道・街道などの絵図、写真、あるいは Sharp 氏が日本国内の種々のウェブサイト上で関心を示した道路・舗装の写真に必要な説明を返したりした。編集の最終段階の本年5月に入って最終的に採用したいと言ってきたものは、青森県内の国道 339 号階段道路であった。これは Sharp 氏が県の観光情報サイト (アプチネット) で見出したものであるが、階段道路の由来、参考文献の紹介、著作権の扱い等を含め県の道路課から大いに教示、協力をいただいた。窓口となっていたいただいた根岸健志氏に厚くお礼を申し上げる。本の刊行時期は不明だが、どんな紹介になっているか大いに楽しみである。

REAAA 第 17 回若手技術者会議出席報告

水 橋 光 希*

はじめに

REAAA 第 112 回評議員会の開催にあわせて、第 17 回若手技術者 (Young Engineers Professional: 以下、「YEP」という。) 会議がマレーシアの YEP を幹事として 2020 年 7 月 10 日に開催された。YEP 会議は各国の若手の道路技術者の交流を目的として開催され、2012 年 4 月の第 1 回会議以降、評議員会と合わせて同開催地で年 2 回程度開催されている。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合会議ではなく WEB 会議形式で実施された (評議会と同様)。

第 17 回若手技術者 (YEP) 会議の概要

日本、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、台湾、オーストラリアから合計 22 名の会議参加があった。YEP のメンバーは、各国の国家公務員、地方公務員、民間建設コンサルタント社員、研究者等、多岐にわたっていた。

本会議では各 YEP の自己紹介から始まり、各国からの情報共有、次回会議開催方針の議論がなされた。

各国からの情報共有では「新型コロナウイルスの拡大の道路分野への影響について」を共通テーマとして

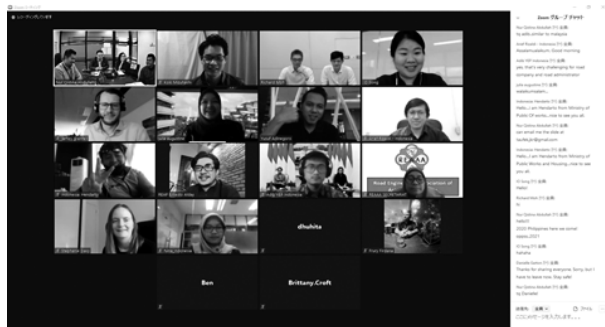
報告がされた。

アジアは欧米と比較してウイルス拡大が緩やかではあるものの、幅広い業種で在宅ワークの推進、外出自粛がなされ、建設分野においても体温計測、ソーシャルディスタンスの確保、消毒等の現場での拡大防止策の実施の様子が紹介された。また、国によっては一時中止等によるプロジェクトの遅延や政府による財政出動の検討状況等の紹介もあった。

各国テレワークの推進中で、業務効率の低下も大きな議論となった。例えば台湾の建設コンサルタント社員から設計分野の効率は低下するものの、分析・解析業務の効率はあまり低下していないという報告があった。設計業務はコミュニケーションを多く取りながら進めるためコミュニケーションロスが発生することが原因のようである。

参加所感

道路の運営は、事業の性質上、国内を中心に業務を行う者が多く、経験の浅い私のような若手には海外の技術者と情報交換をすることで非常に貴重な経験だと筆者は過去 2 回の出席を通じて感じた。例えば各国のプレゼンテーションだけでなく、休憩時間の海外技術者との雑談を通じて、技術的な知見や背景にある各国の地理的・社会的状況、整備思想の違いを感じ取ることができ、大局的な視点を持つのに役立つ。今回は社会情勢の都合上 WEB 会議に変更となったため残念ながら会議以外での雑談を通じたコミュニケーションの難しさはあったものの、世界的な緊急事態の中、各国道路分野における技術者の状況を知る良い機会となった。



写真一 2 YEP 会議の様子

* 中日本高速道路(株)東京支社 保全・サービス事業部企画統括課